

令和2年度第3回大分市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年10月7日(水) 10:00~11:00

2. 場 所 大分市教育センター 4階 大会議室

3. 出席者

○総合教育会議構成員

大分市長	佐藤 樹一郎
大分市教育委員会教育長	三浦 享二
大分市教育委員会委員	古城 和敬
大分市教育委員会委員	上杉 美穂子
大分市教育委員会委員	古城 一
大分市教育委員会委員	岡野 涼子
大分市教育委員会委員	佐藤 光好

○事務局

企画部長	伊藤 英樹	教育部長	佐藤 雅昭
企画部審議監	広瀬 正具	教育部教育監	高橋 芳江
企画部次長	高橋 賢次	教育部審議監兼文化財課長	坪根 伸也
企画部次長兼企画課長	小野 晃正	教育部次長	桑野 徹
商工労政課長	正池 功	教育部次長兼社会教育課長	村上 雄二
企画課参事補	足立 威士	教育総務課長	高田 隆秀
企画課主査	高橋 和志	学校教育課長	野田 秀一
		体育保健課長	清水 篤
		教育総務課参事	梶取 隆之
		教育総務課参事補	黒木 眞由美
		教育総務課参事補	三嶋 みどり
		教育総務課主任	園田 哲也

4. 次 第 (1) 開 会

(2) 議 事

キャリア教育について

(3) 閉 会

<p>開会 企画部長</p>	<p>皆様、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから令和2年度第3回大分市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>会議の進行を務めさせていただきます、企画部長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでははじめに本会議の議長であります、佐藤市長からご挨拶申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆様、おはようございます。第3回の大分市総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>前は、小中学校における新型コロナウイルス感染症に係る対応とGIGA スクール構想の方向性についてということでご議論いただきました。新型コロナについては、これからインフルエンザが流行する時期にもなりますので、しっかりと対応する必要があると思います。そして、一方では、イベント等の再開も進んでおりまして、先々週は野津原の天空広場で音の森フェスティバルを開催しました。フェスティバルでは、植田・植田西・植田南・城南・南大分中学校の吹奏楽部の皆さんに出演いただきました。新型コロナ対策を取りながら開催し、大変良かったなと思います。</p> <p>先週は、いこいの道と昭電ドームの周りでサイクルフェスが開催されました。これは新型コロナの感染拡大後、全国から400人近い選手が集まる初めての大きなイベントだと思います。今後もこのような大きなイベントについて、新型コロナ対策をしっかりと行いながら取り組んでいきたいと考えているところです。</p> <p>今日は、キャリア教育ということで、岡野委員が一般社団法人NINAUとして日田で取り組んでおられるキャリア教育のお話をさせていただき、意見交換をさせていただきます。これからの教育、人材育成、さらには企業とキャリアと繋いでいくことは重要な課題でございます。大変忙しい中準備をさせていただき、ありがとうございます。</p> <p>最後にこの後、陸上競技の全国大会に係る事務処理ミスについての報告がございますけど、一部報道されているとおり、先生のミスにより登録ができていなかったということで、大分市、そして県陸連の方からも教育的配慮で出場させていただけないかと要請をしているところでございます。私も陸連の会長といろいろ話をして分かったのは、陸連の方は、部活の先生方の献身的な取組でありますとか、フィールド・グラウンド、いろいろな形で学校の現場が支えていて、それが日本の競技力の向上に大変貢献しているという認識が全くないということがよく分かりました。こういう状況のなかで、先生方の働き方改革についても大変重要な課</p>

<p>企画部長</p>	<p>題になっておりまして、部活の位置づけもなかなか難しいと思います。また、中学生・小学生含めた地域のスポーツ少年団や地域スポーツクラブがある中で、部活動が日本のいろいろな競技の競技力を強化することに大変大きな役割を果たしていることは事実だろうと思います。</p> <p>これからのテーマの一つとして、部活動の評価を含めた部活のあり方や先生の働き方改革を議論していくことも大事だと思っております。今日のテーマではございませんけども、そういう点につきましても課題ではないかと思っている次第です。</p> <p>今日は、キャリア教育についてでございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>議事に入ります前に、教育委員会から報告事項があるとの申出を受けておりますので、教育部長よろしくお願いいたします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>教育部長の佐藤です。</p> <p>総合教育会議の貴重な時間ですが、少しお時間をいただいて、私より報告をさせていただきます。</p> <p>皆様方には、先の定例教育委員会終了後、市内中学校での全国中学生陸上競技大会 2020 への出場申込手続きの遅れにより、中学生が大会に出場ができなくなったことについて、ご報告をしたところでございます。</p> <p>本日は、その後の経過について、ご報告いたします。</p> <p>この大会は、申込資格記録に到達した生徒だけが出場できる大会であり、当該生徒は、今大会への出場を目指し、日々努力を重ね、標準記録を突破しておりました。</p> <p>教育委員会としては、なんとか出場ができないかと、県中体連会長を通じて日本中体連会長からも日本陸連に働きかけをしてほしい旨依頼しました。</p> <p>また、市長も日本陸連関係者及び関係機関へ直接依頼するなど、出場機会の実現に向けて働きかけていただけりましたが、日本陸連からは「申込期限が過ぎているので認められない」との回答でありました。</p> <p>しかしながら、本市での9月30日(水)の記者会見後、全国的に大きな反響がありましたことから、なかでも、青山学院大学陸上競技部原監督も「主催者はルールだからと言って、まったく受け入れないのではなく、1番に考えるのは未来ある生徒に対する配慮では」との発言がありました。</p> <p>そこで、10月2日(金)、少しでも出場の可能性を求め、保護者にも確認を行ったうえで、日本陸連へ申込書類を送付するとともに、教育長か</p>

市長	<p>ら、大分陸上競技協会へ日本陸連に対し働きかけをしてほしい旨依頼をしましたが、「状況は十分理解できるが難しい」との回答でありました。</p> <p>その後、昨日ですが、10月6日(火)、大分陸上競技協会より学校へ、本件について「陸連は何も動くことはしない。陸連の姿勢は変化しない。」とする日本陸連の回答があったところでございます。</p> <p>以上の状況でございますが、大会は16日からということでまだ日にちがあることはありますので、引き続き教育的配慮をお願いしたいというスタンスで取り組んでいるところでございます。</p>
企画部長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、本会議の議長であります佐藤市長をお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、本日の議事であります、「キャリア教育について」でございますが、まず始めに岡野委員からキャリア教育に関する取組につきましてご説明いただきまして意見交換させていただきたいと思っております。それでは、岡野委員よろしくをお願いいたします。</p>
岡野委員	<p>それでは、私の地元であります大分県日田市で普段行っておりますキャリア教育の事例を発表させていただきます。</p> <p>実は、こちらの資料にありますとおり、現在各市町村でキャリア教育は実施されていると思っております。</p> <p>大分市立小中学校キャリア教育の資料の中にありますとおりに、キャリア発達という意味で社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程が「キャリア発達」とありますが、まさに私どもが取り組んでいることでして、キャリアの3段階、20歳ごろまで教育を受けて、そこから社会に出て60歳・65歳頃から余暇を過ごすというその段階が、寿命が延びたことで崩壊していく中、多様なキャリアについて考え、どんな生き方していくのか自分らしい生き方なのか、誰をお手本にしたらいいのかなど、そういった本当に様々な生き方を考えていかなければいけない時代に来ているのではないかなと思っております。</p> <p>一般社団法人NINAUは、若者が地方で暮らしていける仕組みを作るための一つとしてキャリア教育を行っています。</p> <p>特徴的なのは、小・中・高そしてUターンを含めた連動的なキャリア教育に取り組んでいるところでございます。「おとな先生」という形で、日田を担う</p>

	<p>人材育成事業を日田市役所と一緒にやっています。担当課は商工労政課なのですが、普通キャリア教育というと、教育委員会や教育機関で行っているような印象だと思うのですが、キャリア教育は仕事教育・生き方教育でもあるので商工労政課が窓口になって一緒にこの事業を構築しているような形です。</p> <p>具体的に言うと、日田市では、小学校が18校、中学校は12校あって、高校は私立を含めると5校あります。そのすべてでこの事業を行っているというのが、特徴的な取組だと思います。それぞれの学校でいろいろな「おとな先生」を呼んで授業をされていると思うのですが、それが日田市の学校すべてで行われるということなので、小学校4、5、6年生、中学校1、2、3年生、高校1、2、3年生、合わせて9年間この授業を通して日田で働いている大人たちや企業の取組を知っていくということを行っているのがNINAUの活動です。</p> <p>また、弊社の仕組として、ただ日田を担う人材育成事業のみをやっているのではなく、企業や団体から年会費などをいただいて企業と連携しながらやっていくというのが特徴的だということで、いろいろな地域から視察等に来ていただいているような状況です。</p> <p>もう1つが、若者の拠点を駅前に作っています。会社にする前3年間は、ボランティア形式で高校や企業さんと一緒に高校生たちを職場に連れて行ったり、座談会を行ったりといった取組をずっと行っていました。しかしそこでよく言われたのが、高校生は未成年なので学校の先生や保護者以外の大人と関われる場所がないので、キャリア教育が進みにくいということでした。だったら場所を作ってみようということで、駅前にFLAGというフリースペースを作っています。フリースペースを作る時も日田林工の高校生たちと一緒に作ったりすることで、いろんな学校の子たちが混ざり合っってプロジェクトを進めて行くというような場所になっています。こういうプロジェクトを進めるなかで知事にもお越しいただきました。「若者は地域の宝なのでこの取組はどんどん進めて行ってください」と言っていただいたことは非常に心強かったです。</p> <p>具体的に「おとな先生」の話になると、先ほどお話ししたとおり、小学校18校・中学校12校・高校5校で授業を行っているのですが、コーディネート業務を行うのが私たちの役割です。交流したいけれどもツテがなくて、どうコンタクトを取っていいのかわからない人、また、異動で新しく赴任して地元企業を知らない先生たちのために、私たちがコーディネートを行うということをしております。例えば、天ヶ瀬に喜楽苑という福祉施設があります。喜楽苑は、大分県内の介護施設で、初めて厚生労働省からユースエール企業の認定を受けました。これは有給取得率や離職</p>
--	---

	<p>率などの条件をクリアした雇用管理の状況等の優良企業の認定です。それをクリアしたということは、非常に働きがいがある、そして働きやすい企業である証明なので、そういった企業をとにかく子どもたちに知らせるようにしています。みんな真剣に話を聞いてくれて、さらに、企業の名前を覚えるんですよね。実際企業の方が学校に来たときに、「この会社の名前なんだっけ」と言うと、「キャッキョウ」と言いながら子どもたちが合唱するみたいな形で授業を行います。</p> <p>もう1つ弊社が大切にしているのが必ずワークを行うこと、つまり、実際に一緒に行う活動を取り入れ、双方向の授業を行うということを弊社の特徴としてやっているところです。また、1学期・2学期・3学期必ず1回ずつ「おとな先生」を行うことで、たまに来て終わりではなく、子どもたち自身が「おとな先生」を知っている、「今度『おとな先生』あるらしいよ」という形で浸透させています。</p> <p>総合的な学習の時間が小学校からありますので、総合的な学習で学校がどんな取組をしたいか最初にお話を聞いて、一緒に作っていくという形でやっているのですが、今年はちょっと新型コロナでできなかったのですが、毎年4月には年度当初に各担当のコーディネーター達が学校に行って今年はどんなテーマでやるかとか、どんな人に来て欲しいかなどをヒアリングして、そこから授業を組み立てていく形を取っています。</p> <p>ちなみに日田の場合は、小学校4年生では必ず「水と教育」がテーマになります。水に関わる人ということで、水辺で行うイベントを開催している方に来ていただいたり、水と言えばやはり森は切り離せないで、林業の方に来ていただいたり、そういったテーマ性を持たせて授業を組み立てています。例えば、6年生だと「人を知りたい」というご要望だったりするので、そこから組み立てていくのが私たちの役割です。組み立て時にワークを取り入れることで、「楽しくてもっともっと知りたい」という気持ちを促すことが大切かなと思っています。アンケートでは90%くらいが満足したと答えています。実は、結果が100%とじゃない方がいいと思っています。例えば、小学生でも自分はサッカー選手になりたいので、日田の会社の事は興味がないという子がいます。それはそれで私はすごくいいなと思っています。しかし、その中で初めて知ることがたくさんあったというところをもっともっと掘り起こしていけたらなと思いつつも授業を行っています。</p> <p>中学校の取組としては、毎年、年度当初に企業の方に日田市商工労政課の方と一緒にご挨拶に行き、授業の受け入れが可能かどうかの調査をしています。今年に限って言うと、新型コロナの影響を最初に電話調査等しまして、どこの企業だったら、どこの時期だったら、どれぐらいの人数</p>
--	--

	<p>だったら受け入れ可能かを一覧にして、すべての中学校 12 校にお渡しをしました。その中から中学生の子どもたちの要望に合ったところを先生方に選んでいただいています。また、その後の調整なども依頼があれば行うようにしています。あとは、バスツアーの計画をこちらが立てたりするようなこともしています。さらに、職場体験前の心得といった授業をやらせていただいていますし、当日の場所の確認、250 ぐらい事業者数があるのですが、そういったことを確認したりするのも、コーディネーター業務として行っております。</p> <p>こちらが高校のキャリア教育のカリキュラムですが、高校はなんといってもいろいろなプロジェクトを高校生が行っているということが特徴です。実はこれは、日田市内の高校 5 校すべてが集まっている状況です。今、県立 3 校・私立 2 校でおおよそ 1 年生が 900 人の高校生がいますが、日田市が高校生のキャリア教育をやるということをしかりと打ち出してくださっていますので、すべての校長先生に快諾していただいてキャリア教育を進めています。毎年冬に行っているのですが、去年のテーマは「SDG s」でした。実行委員の生徒が自分たちで「SDG s」を皆に説明する。「SDG s」とはそもそもなんだろうということから始まって、では日田で「SDG s」で関わっていけることはなんだろうということを探していくというキャリア教育プログラムクラフト会議というのを行いました。この時ゲストに来ていただいた企業の社長さんに対しての質問や司会進行もすべて高校生が行います。大人は口出ししません。</p> <p>実はプログラムも高校生が全部考えるので、一人ひとりの高校生たちが発表する時間があります。本来イベントを進行するときには、大人だったら時間配分を考えたり、失敗したらどうしようとか思ってしまうのですが、高校生のこの表情を見てもらうとわかるように、そういったことを感じさせません。大きなイベントをやるのが目的でなく、それに関わった実行委員一人ひとりの中に、自分がやればできるだとか、自分の中でこういうことに興味がある、これが楽しかったという成功体験を培ってもらうためにこのイベントをやっています。</p> <p>ちなみに、この時の実行委員長の生徒は、このあと「SDG s」に関連する仕事を見つけて、NHK の番組等で取り上げられて、今、他の市町村の高校生たちとプロジェクトをやっています。この地域のために何かができたといい体験の後なので、主体性が強いです。そうすると、一歩が踏み出せる人材になると考えています。今年は新型コロナの関係で集まって出来ないと思うのですが、ただ何かしらの形でみんなの笑顔が見られたらいいなと思っているところです。</p> <p>最後にキャリア教育というのは、イコール職業教育と思われがちなの</p>
--	---

	<p>ですが、生き方や自分の色、幸せってなんだろうということを考えるための教育だと思っています。</p> <p>現在、インターネット等が発達してスマホ等で情報が子どもたちにすぐ入ってきます。入ってきますが、実際の体験が本当に少ない。経験してみないとわからないことが多いですが、なかなか経験する時間がないので、経験や体験を授業の中で取り入れていこうというのが、弊社のNINAUのキャリア教育の方法です。小さな成功の積み重ねがキャリア教育に繋がっていくのではないかなと思っています。</p> <p>最後に、目的は日田で働くという子どもたちを増やしたいということなので、そういう意思が芽生えるプログラムを進めています。自分の仕事にやりがいや生き甲斐を持っている方がたくさんいるので、それをまず知ってもらい、そこから実際に見ていて、自分自身で考えて、将来に繋がっていくということを連動性のなかでやっています。</p> <p>今はまだ3年目でUターンがどれだけ増えたかといった結果が出ているわけではないですが、やっぱり10年後のために種を蒔くという意識があるかどうかで地域が変わるのではないかなと思っています。今、日田市役所とこうした取組をさせていただいているのは本当にありがたいなと思っています。</p> <p>以上が、日田市で行っているキャリア教育に係る取組でした。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>岡野委員大変楽しい取組の説明ありがとうございました。次に、大分市役所における取組を説明させていただきまして、その後意見交換をさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、大分市のキャリア教育の取組をお願いします。</p>
市長	<p>おはようございます。学校教育課の野田でございます。</p> <p>本市におけるキャリア教育の取組について、ご説明いたします。</p> <p>お手元にA3判の資料を準備しておりますのでご覧ください。</p> <p>まず、左側上段にございますが、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されることとございまして、キャリア教育で育成すべき力としましては、望ましい勤労観・職業観だけにとどまらず、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力、いわゆる「基礎的・汎用的能力」をさらにここに示させているように、人間関係形成・社会形成能力・自己能力理解・自己管理能力など4つ育成する力に分けられているところでございます。</p>
学校教育課長	

次に、中段の「本市におけるキャリア教育の位置付け」をご説明いたします。

本市では、大分市総合計画「おおいた創造ビジョン2024」第2次基本計画におきまして、社会の変化への対応として、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進に努めます」と明記いたしまして、キャリア教育の重要性を掲げております。本計画を踏まえ、「大分市教育ビジョン2017第Ⅱ期基本計画」や、それを具体化しました「大分市学校教育指導方針」におきましても、重要課題として位置付けているところでもあります。

続いて、下段のキャリア教育の全体像（イメージ）をご説明いたします。

キャリア教育は、児童生徒の発達の段階に応じた学年間・小中高といった学校種間の「縦」の連携と、学校と家庭・地域、企業等とをつないだ「横」の連携を活かして推進することが大変重要であります。また「キャリア教育」は、単独の教育活動で行われるものではなく、各教科や道徳科、総合的な学習の時間等、学校教育全体の活動を通じて体系的に行っているところでございます。

例えば、小学校6年生の社会科の授業におきまして、国民三大義務の一つとして、働くことの義務を定めている事、国民の基本人権の一つとして働く権利、こうしたことを学習し、働くことに対する知識を持ったうえで、中学校で実際に職場を訪問し、体験学習を行い、主体的に進路を選択する態度や意欲などを培い、そしてまたそののちに中学3年ですが、社会科の公民的分野の授業におきまして、職業の意義と役割や雇用労働条件などについて学び、将来就きたい職業について考えて、系統的に考えるようにしております。

また、各教科間、道徳におきまして、挨拶や相手を思うこうした礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動を取ることを学ぶとともに、職場体験学習でその体験が理解の一助になっていくように、相互に関連させまして子どもたちに指導を行っているところでございます。

資料右側上段の「各学校における具体的な取組」をご覧ください。

各学校におきましては、キャリア教育を推進するため、「キャリア教育のねらい」や各教科等との関連につきまして、キャリア教育の全体計画を教育課程に位置付け、組織的かつ系統的に取り組んでいるところでございます。

お手元に資料2冊準備しております。キャリア・ノートと申しまして、今年度から県の教育委員会が県内全小・中・高等学校の子どもたちに配布しているものでございます。

	<p>めじろんがカラー刷りで大きく印刷されている物が、小・中学校版でございます。例えば、13 ページでございますが、それぞれの学年で自分の振り返り、こんな自分になりたい、そのためには、どのように自分が過ごしていけばいいのか、53 ページでありますけど、中学校に入りまして、3年生の2学期になります。希望する進路先を調べようということでこうした欄もございます。これら1つ1つのページは、これまで学校が作ってございましたけど、1冊にまとめられており、子どもたちが過去の自分がどのように考えていたか振り返りが出来るようになっていきます。</p> <p>白黒のものが、高等学校版になります。入学直後に4ページ、5ページになります。自分の夢を記載したり、さらに26ページになります。卒業を前にして、これまでの小中そして高等学校での生活を振り返ったりすることができるようになっております。</p> <p>続いて、キャリア教育に係る体験活動のうち主なものを紹介させていただきます。</p> <p>資料にも活動の様子を写真で準備させていただきましたが、大変小さく見えにくいものもございますので、前のスクリーンでご紹介させていただきます。</p> <p>小学校の活動を3点ご紹介いたします。</p> <p>1点目は「まちたいけん」でございます。いずれの学校も主に小学校の1.2年生の生活科や3年生から6年生での社会科の授業において、自分たちの住んでいる地域を巡り、地域にある施設やそこで働く人々に出会い、自分たちが住んでいる地域の特色を知る学習活動を行っております。</p> <p>この写真は、野津原の町並みを、児童たちが歩きながら、地域の特徴を探したり、地域にある施設に立ち寄り、お店等の人々と触れ合ったりしているところでございます。</p> <p>こちらでは、大分駅構内を子どもたちが歩いて、駅員の方々の働く様子に触れているところでございます。</p> <p>次が「職場訪問」でございます。地域で働く従業員の方々の仕事についてその説明ややりがい、苦勞などの話を聞くことを通しまして、働くことの大切さや職業への興味関心を高めているところです。</p> <p>こちらの学校では、テレビ局を訪問しまして、ニュース番組が放送されるまでの制作過程やその方法、ニュースを伝える上で注意していることなどについて直接アナウンサーの方から話を聴いているところです。</p> <p>これは、半導体工場を訪問しまして、半導体の役割あるいは効率よくその半導体を生産するための工夫等について、説明を受けているところでございます。</p>
--	--

	<p>訪問した子どもたちからは、アナウンサーの方の話を聞いて「話し方がとても分かりやすくすごかった。」、「私もそんなふうに出るようになる人になってみたい」という感想を聞かれているところでございます。</p> <p>次に3点目です。「中学生との合同体験活動」になります。本市では、ご存知の通り、小中一貫教育を最重要課題としておりますが、小学生が中学生と一緒に授業を受けたり、中学校の体育大会や文化発表会に小学生が参加したりするなど、一緒に活動を行うこともあります。小学生にとっては、中学生の頑張る姿を見て、憧れを抱いたり、将来の自分の姿を想像したりすることができる機会となっております。</p> <p>これは中学校の体育の授業に小学生が参加し、一緒に活動をしている様子です。</p> <p>次が、中学生が自分の出身の小学校を訪問しまして、あいさつ運動を行っているところであります。</p> <p>次に中学校の活動3点をご紹介します。</p> <p>1つ目は、職場体験学習でございます。働くことの楽しさや厳しさ、やりがいなどを学び、望ましい勤労観や職業観を育むことを目的に、地域の会社や企業等を訪問しまして、3日間程度、職場体験学習を行っているところです。望ましい勤労観・職業観を身につけるだけではなく、成果といたしまして、地域の会社を知るそこで働く人々の姿に直接触れる成果が出ております。少し大げさな表現になりますが、子どもたちがそこで働く人々から説明を受ける際のその方の働く姿の息づかい、そういったものを肌で感じる事が非常に大きな成果に繋がっていると思っております。</p> <p>普段なにげなく通学路で使っている路上にある小さなお菓子屋さん、実は全国に商品を届けていたり、あるいは、おじいちゃん、お父さん、そして自分と3代に渡って事業所を受け継いでいる方、一つの品物を作り続けたりしている事業所の方、そう言った方々のお話を聞く機会、地域を知る、地域の人を知るそして地域の人の生き方を知ることによって、働くことにどんな意義があるか、どんな誇りを持ってお勤めされているか、そう言ったことを子どもたちが知る機会になっているところがございます。</p> <p>この写真は、料理店で、食器洗い等の作業を行っています。次が、自動車整備工場におきまして、自動車の仕組みについての説明を受けたり、タイヤ交換など、修理作業の補助等の業務を体験したりしております。</p>
--	---

	<p>体験した生徒たちからは、施設内で「相手に伝わるように話すこと」「周りをよく見て自分から気付ける人になることが大切」といった話があったなどの感想が挙がっております。</p> <p>次に、「ヤングキャリアアドバイザーによる職業講話」です。</p> <p>これは、商工労政課による事業でございます。中学生に年齢に近い若者から仕事の志望動機や業務内容についての講演を聴き、働くことの社会的意義を感じることで、職業観等の形成につながるものと考えております。現在、今年度はコロナのことがございましたけれども、これまで全校で多い学校には、10人の方が学校を訪問して下さって、子どもたちにお話をしてくだっております。</p> <p>これは、新聞社で働く方から、紙面の特徴や、取材や編集する上での苦労や工夫について説明を聞いているところです。</p> <p>次は、美容師の方から、生徒にヘアアレンジ体験をしていただきながら、仕事内容を説明受けているところでございます。</p> <p>最後に中学校の活動3点目ですが、「卒業生による高校体験講話」でございます。高校1年生が自分の母校の中学校を訪問し、高校で自分が実際に毎日受けている授業あるいは学校生活の様子や部活動等について、話をしたり、質問を受けたりする機会を設けております。</p> <p>中学生にとっては、高校生活への憧れを抱くとともに、上級学校への進路選択を行うきっかけや、進路選択を決めるための情報となっております。</p> <p>以上のような様々な体験活動を通じて、各学校では、地域と連携を図る中、すべての教育活動を通じて計画的、系統的にキャリア教育を推進しているところでございます。</p> <p>以上で「本市におけるキャリア教育の取組について」説明を終わります。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございました。それでは、先ほどの岡野委員の取組、そして大分市の取組、どちらでも結構でございますので、それぞれ意見交換をさせていただければと思います。ご発言ある方いらっしゃいますか。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
古城（一）委員	<p>岡野委員、素晴らしい発表でございました。ありがとうございました。ちょっと伺いたいののですが、企業から料金はどれぐらいいただいているのかということと、素晴らしいプロジェクトを3年やられて、一番困ったこと、またそれをどう突破されたかということをお聞かせください。</p>

岡野委員	<p>数多くの企業に参加していただくことで、年間 6 万円の年会費とか、またそれぞれコースによって金額が決まっています、一番高いところは 60 万円です。PR 動画作成など、サービス内容が変わってくるので、そういう意味では豪華という形になっております。また、一番大変だったのは、やはり学校の先生方への浸透だと思います。校長先生たちに校長会などで最初の説明をさせていただいたり、1 年目は、ロールモデルとして 2 校でスタートしたりとか、そういう形で少しずつ浸透させていただきました。少しずつにしないと、学校の先生方がただでさえ大変なのに、さらに負担が増えてしまいます。ロールモデルの 2 校の校長先生が、他の校長先生方にメリットを伝えていただいたところがあります。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございました。他にいらっしゃいますか。</p>
教育長	<p>ちょっと 1 点お伺いしたのですが、「おとな先生」、これは非常にある意味キーマンになっていると思います。全国で職場体験学習が始まったのが、兵庫県の「トライやる・ウィーク」からです。兵庫県は、平成 7 年に大震災があり、その後平成 9 年に神戸市須磨区の痛ましい事件がありました。それを受けて「こころの教育」が大事だということで、平成 10 年からトライやる・ウィークが始まりました。そして全国でこれが浸透していくのですが、神戸市も実はこのトライやる・ウィークの「トライ」は挑戦するトライと学校・家庭・地域社会というトライアングルをかけています。この地域というのが、いわゆる「おとな先生」の役割を持っていると思っておりますが、具体的にどんな仕事をして、どんな役割を担っているのかというのをお伺いしたいです。大分市で職場に行って体験学習をするのは、全部教員が関わってその様子を見て、評価をしながらやっているため大変負担が大きいのが正直なところです。是非、教えていただきたいです。</p>
岡野委員	<p>「おとな先生」というのは実は学校の中で授業してくれる人たちを「おとな先生」という形にしている、ボランティアで今 120 名ほどが登録してくださっています。本当に有志なので、子どもたちに自分の仕事を伝えたいとか、こんな会社があるよということを伝えたい方々が登録されていて、学校からの要望に関して「おとな先生」たちに依頼をするという形でのコーディネーターが重要だと思います。今弊社では、4 人のコーディネーターがおりますが、実は元校長先生で退職された方などにいただいております。学校現場の事も分かりますし、地域の人たちの繋がりも強いですが、そのコーディネーターも企業のことをよく知らないこ</p>

<p>教育長</p>	<p>とがあります。しかし、だからこそ、とてもやりがいがあるとおっしゃってくださいますので、やっぱりコーディネーターという役割が非常に重要なのかなと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>古城（和）委員</p>	<p>3年間経過したというところなのですが、先ほど紹介ありましたが、例えば小学校4.5.6年で一学期の間に約90分という形で行われているとのことですが、そういった展開が他の教科などにどう繋がっていくのかという点をご紹介いただければと思います。</p>
<p>岡野委員</p>	<p>はい、入り口としては総合学的な習の時間を使ってという形になっています。例えば車の工場見学であれば、日田からダイハツさんに行ったりとか、福岡のトヨタさんに行ったりするときに、その関連で地元の車関係の仕事をしている企業さんに来てもらうために、他の社会科の授業などと連動させたりすることはよくあります。また、先ほどの大分市の「まちあるきたんけん」にもありますが、歴史の授業として、その偉人を巡るということと連動させて街歩きの場所を考えるという連動性はあります。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。それでは上杉委員お願いします。</p>
<p>上杉委員</p>	<p>岡野委員、ありがとうございます。1点お聞きしたいことがあります。高校生が集う効果についてですが、高1・高2・高3の段階でどのように取り組んでいるのかということと、この活動を高校から中学校、中学校から小学校というような下への繋がりについて、今後どういった展開をお考えになっているのかお聞きしたいです。</p>
<p>岡野委員</p>	<p>ありがとうございます。本当にそうですよね。今確かに高校生が活動できるようにしていますが、ではこの取組を中学生に伝えているかというところやっぱりこれは出来ていないと思います。例えば高校生が中学校に出前授業に行くということは、学校単位でそれぞれされていますけど、弊社としてこういった取組、伝えるというのはなかったもので、それを是非入れていきたいと考えています。</p> <p>先ほどの学年の段階での取組ですが、900人すべてで何かというのは、正直出来ていない状況です。実行委員は毎年各学校から30人くらい応募してくれていますが、その中で終わった後も本気で取り組むのは、5人くらい、10分の1程度の割合となっています。きっとそういった子どもた</p>

<p>市長</p>	<p>ちが将来の地域人材になっていくのではないかと考えています。無理強いとは全然しないので、やりたいと言った子どもたちとずっと繋がっている形です。</p> <p>ありがとうございました。佐藤委員、いかがでしょうか。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>感想になるとと思いますが、実体験を大切にすることが重要なのだろうと思います。キャリア教育は、職業・勤労という狭い意味ではなくて、自分らしく自分の人生をより幸福に生きるということが最終の目的で、そこをしっかりと押さえているなという感じがします。ですから、そのためにはどうしても実体験が必要で、その経験の中から自分が将来どういう姿で生きていくかというのを子どもたち自身が見つける、子どもたちは、自分に向いている仕事は何かとか、様々な経験のなかで、社会の中で生きていく自分の将来の姿を探っていく、そういうものがキャリア教育の本質なのだろうと感じがします。その視点を忘れずにこれからも取り組んでいきたいと思っています。さらに感じたのは、こういう組織があって、職場体験を行うときに学校との間に立ってコーディネートしてくれるということは、学校としてとても助かるだろうということです。とても大変な仕事だと思いますが、大変ありがたいです。お疲れ様です。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、ありがとうございました。お一人ずつご発言いただきましたけど、他にご発言ありませんか。</p>
<p>教育長</p>	<p>岡野委員、今年はやられているのですか。</p>
<p>岡野委員</p>	<p>今年も、何も予定通りに進んでいません。1学期は、全くできませんでしたし、職場体験については小規模校の1~2校は実施したのですが、大きい学校はできていないので、今年3年目で全学年に浸透させようと計画を立てていたのですが残念です。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、学校も時間との戦いになっています。これから先、ありがたい事に一人1台タブレットが導入されます。みんな企業に出かけていくのではなくて、オンラインで複数の職場を体験できないかと、その可能性を今後探っていきたいと思っています。いろいろな取組を見て、やはりコーディネーターがいるといないとでは全然違うと感じました。ありがとうございました。</p>

市長	はい、ありがとうございました。
古城（和）委員	これは、大分市についての質問なのですが、ヤングキャリアアドバイザーは商工労政課の事業であると伺いました。これは、すべての中学校に派遣しているのでしょうか。また、教育委員会との連携をさらに密にさせていただきたいという思いです。以上です。
商工労政課長	商工労政課の正池と申します。ヤングキャリアアドバイザーの授業につきましても、商工労政課の事業となっております。対象は中学 1 年生・2 年生ということで中学校の方に募集をかけており、今現在 29 校で行っている状況でございます。こちらについては、各学校の方に当課の職員が伺い、すり合わせをしております。企業の方には、年度当初に市報やホームページまた各企業さんをお願いして、ヤングキャリアアドバイザーとして登録していただいております。中学生に歳が近い、就職して概ね 3 年以内の 30 歳未満の方からのお話と実体験をしていただいております。この授業については、中学生またヤングキャリアアドバイザーになっている講師の方、企業さんからもご協力いただき、平成 16 年から行っている事業でございます。こちらについては、学校や教育委員会とも連携しながら行っている状況でございます。
市長	はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。 それではそろそろ時間でございます。キャリア教育につきまして、岡野委員ありがとうございました。ご意見がたくさん出ましたが、キャリア教育は職業教育だけではなく、人生の力や地域の関わり等を含めた、広く大変重要な取組だと改めて認識させていただきました。大分市でも力を入れて取り組んでいきたいと思っております。 せっかくの機会でございますので、全体を通して他に何かございますか。 はい、それでは今回本日の議事は終了したいと思います。ありがとうございました。事務局お願いします。
企画部長	ありがとうございました。以上をもちまして、令和 2 年度第 3 回大分市総合教育会議を終了いたします。次回の開催日程や議題等につきましては、事務局で調整させていただき、改めてご連絡いたします。皆様、本日は誠にありがとうございました。